

■部会名：地域産業部会

■部会長（有識者委員）：河西 邦人 委員

■市民委員：島本 和夫 委員、志水 有希 委員、寺岡 秀一 委員、  
寺田 外治委員、峯田 智也 委員

■概要

### 1 第6回市民会議で地域産業部会に出された意見の確認

- ・ 市内にもっと色々ある、知られていない観光資源の活用（具体的にはひまわり畑の迷路、草野河畔林、中津湖のフットパス等）
- ・ 観光資源のネットワーク化のことを、マスコミ等を利用して知ってもらうことが重要

⇒ 今までの観光資源についての議論の中に入っているので新規意見として追加はしない

### 2 部会における新規意見及び各界各層との意見交換における新規意見の整理

[作業中の意見]

- 短期の家庭菜園は民間でやっているものが現状でもたくさんあるので、行政が介在しなくてもよいのではないか。ただ、情報発信の面で市が取りまとめて宣伝した方がよい。
- 家庭菜園として農地を20年・30年もの長期間貸し出して、需要があるのか。
- 後継者対策として、農業者の所得水準の向上や農業の魅力向上は必要なので、農業全体の活性化の中に位置付けるべき。
- やきもの市のイベント内容やPRのあり方については、主催が市ではないため総合計画の中で議論することではない。NPO 法人が事務局のため、予算や人員不足で色々な宣伝等やりたくてもできない部分があるので、逆にNPOから市民の方々に協力を呼び掛けて、それを市民が支えていくというやり方が良いのではないか。
- 大学生が農場で実習して単位をとれるような仕組みづくりとあるが、農業に限定せず地元企業で実習する場合すべてに拡げて考えた方がよい。2・3日の短期のインターンシップだと受け入れ企業側の負担になってしまうが、ある程度の長期間で労働力となるのであれば企業側にも人件費削減等メリットがあり、学生側にも単位が取れて企業に人脈ができるという利点がある。大学側の問題もあり時間がかかるかもしれないが、行政主導で中・長期的に取り組むべきではないか。

### 3 戦略テーマの整理

**河西部会長**：行政がやるべきことではなく民間に任せればよいことや、行政でやるべきことであっても費用対効果の面で実現可能性が低い、もしくは税金をかけて行うには非効率なものを除外する方向で意見を整理する。

戦略テーマごとに整理していくが、これまでに色々提案された意見から集

約されたキーワードをもとに、第6回全体会議でこの部会の戦略テーマとして報告したのは、まず中小企業や商店のネットワーク化・物流との組み合わせというのが一つ、二つ目は農業を起点にしてそれを生産・加工・食品にして小売りや市内の飲食店等で提供していくといういわゆる6次産業化のこと、三つ目は観光で、従来型の観光ではなく、市民の視点で様々な市内の観光資源化できそうなものを見つけて組み合わせ、日帰りで楽しむような江別型の観光をやろうというものである。戦略テーマの設定は大きく分けてこの3つということによろしいか。

**部会委員：**異議なし。

### **[戦略テーマ：6次産業]**

**河西部会長：**江別の農業、食品加工製造業、小売り・サービス業を結び付けて江別にもっとお金が落ちる仕組みを作っていこうというテーマである。

- 「農産物直売所の PR」 ⇒ PR のためのパンフレット等が存在するが、その存在が知られていないことが問題。様々な情報がバラバラなので「情報の収集と発信の一元化」が必要。
- 「市役所職員が江別の街中で飲食しなくなった」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「巨大市場の札幌をターゲットにした農作物」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「市が主体となった営農指導体制」 ⇒ JA などの民間がやるべきこととして整理。
- 「菊水ととんでんファームのコラボなど既存資源で高付加価値化」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理するが、「フードコンプレックス特区を活用した産業振興」で民間企業の連携を支援するという提案に変更する。
- 「れんが、小麦、野菜、チーズで江別ピザを販売」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理するが、江別を売り込むために「江別」の名を露出することは必要であるので、「江別ブランド」の構築・拡大という項目とし、短期・中期・長期ではなく継続的に取り組むべきものとして整理する。
- 「農業と産業、大学が一体となって、江別小麦などで町おこし」、「食品・農産物加工など江別の産業を活かす企業の誘致」、「若者の雇用を創出できる大型の農業生産法人」は食に関わる産業の誘致ということでもとめる。
- 新規の取組みはお金の問題や実施主体の問題があるので、既存のものを活用する方策を重視して考えるべき。
- 市の経済政策が所管ごとに縦割りでバラバラなので一度整理する必要がある。また、事業者もバラバラに動いているので、ネットワーク化して活性化する必要がある。そのために短期的には江別市内の事業者・企業などの情報を集めた地域の総合的なデータベースをつくる。それを陳腐化しないように最新の状態にメンテナンスして広くみんなが活用できるようにし、情報を分析することで行政・企業等が政策立案やマーケティングに活用するというようなことができればよい。
- 江別の『6次産業』のプラットフォームになるようなサイトを作って、そこに事業者が自らの最新の情報を書き込んでいくというような双方向の取組みを短期の取組みにしてはどうか。これまで情報がバラバラに集約・発信されてきたのが問題だっ

たので、経済部にある情報や商工会議所にある情報などすべて一元管理することが大事である。個別の情報の信頼性・正確性についてはそこに参加するすべての事業者等が責任を持ち、行政がその旗振り役・取りまとめを行うことで、公平な情報として担保できる。それには役割分担を明確にして、みんなが責任を持って参加するシステムづくりが必要である。問題は出来上がったものがきちんと活用されて、投資した分が回収できるかどうかである。

⇒ データベース単独の話にするのではなく、前回の全体会議の中で他の部会でも色々出てきた情報発信の問題、その前段階としての情報収集も含めた江別市全体の情報戦略を考えるということでもまとめれば、その中にデータベースのことやその活用の中にも含まれてくる。ただし市民会議全体で話をしてしまうと膨大な情報量のデータベースになってしまうので、地域産業部会として産業分野に特化した「産業分野の情報戦略」というものを一つの大きな柱とする。道外へ江別の素晴らしいものを売り込むブランド戦略とも連動させられるし、観光資源を含めた江別にある既存の資源のネットワーク化の基本情報にもなる。情報戦略は短期に取り組めるものから長期に取り組むものも全部含むので、継続的に取り組む項目として整理する。

- 「作付面積・収穫量が北海道1位であるブロッコリーを加工して付加価値化」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「新規就農を支援する会の発足」・「新規就農の支援、法人化」 ⇒ 新規就農支援はJA道央で農業振興公社をつくって行っており、それが機能していることから、民間がやるべきこととして整理。
- 「酪農公社の牛乳、えぞ但馬牛の地元消費」 ⇒ 「地産地消の推進」という項目をつくってそこにまとめることにする。せっかくえぞ但馬牛という素晴らしい牛がブランドとして売られているのに市民がそれを食べられないのは問題で、池田町や白老町の大きなイベントに負けないうくらいPRをして市民に知ってもらい、食べてもらう機会を提供することが大切。
- 「おいしく安い野菜を活かし、農産物直売所を増やす」・「江別恵庭線に農産物直売所を整備」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「農産物の貯蔵などへの冷熱エネルギーの活用」・「冬に出荷するための貯蔵庫を整備」・「泥炭を暖房に利用したハウスによる農業の通年化」 ⇒ 国の補助金を利用し、基本的な政策としては市が農業者に情報発信し、取りまとめることとしてハードの中期に整理。
- 「作物の世話を請け負うネットを利用した首都圏向けの貸し農園」 ⇒ すでに他県で民間がやっている事例があるので、民間がやるべきこととして整理。

### **[戦略テーマ：観光資源のネットワーク化]**

**河西部会長:** 既存の江別にある観光に結びつきそうな地域資源をうまくパッケージ化して売り込んでいくというのが基本的な考え方である。この戦略テーマの理念としては、「市民目線の観光」を自分たちでつくっていかうということ、既存のものを十分活かしていこうということで「今ある地域資源の観光資源化」といったところである。

- 「ホテルがみられる場所への標識整備」 ⇒ 人が集まるようになってしまうと、ホタ

- ルが住めない環境になってしまう恐れがあるため不採用として整理。
- 「工場見学ツアー」は産業振興や江別製品の PR にもつながるので、市がモデル事業として見学の受け入れ先を募集しパッケージ化して、好評であれば民間が事業化していくというように、最初の取っ掛かりの部分を行政につくってほしい。
  - 石狩・江別間を船で結ぶ観光の試みがあるが、観光として成り立たせるには江別側の上陸地点である河川防災ステーション付近に何も魅力となるものがないので、ハード・ソフト両面で整備が必要。
  - 色々規制があって難しい面もあるが、河川を活用した観光戦略を考えるとということで「川の活用の推進」という項目を設定し、河川周辺のハード整備の関係を整理する。
  - 「防災ステーション近くに水遊び、スケートのできる親水公園を整備」⇒ 石狩川は大きくて危険な川なので親水公園というのは難しいため、不採用として整理。
  - 「江別市内の観光資源化の情報収集」を行政がやってはどうかということの一つの項目とし、その個別具体的な取組みとして例えば工場見学ツアーや森林公園の活用などの意見を整理したい。
  - 「野幌森林公園の木の生えていない場所へ市民参加による植林」⇒ 原始林はできるだけ自然のまま残すことにしているはずなので、不採用として整理。
  - 「えべチュンの活用」⇒ 市の公式キャラクターではなく、民間で商品化して商売していることから、民間がやるべきこととして整理。
  - 「野幌小学校の木造校舎や自然の活用」⇒ 現在は木造ではないし、自然の活用は他の意見にもあるため、不採用として整理。
  - 「えべつ出身の有名人を呼んだイベントの開催」・「有名人の観光大使任命による市の PR」⇒ 『6次産業』の戦略テーマのところで産業分野の情報戦略という項目を設けたが、この戦略テーマでも「観光の情報戦略」という大きな項目を一つ設けて、その中で市の PR の取り組み等を整理したい。
  - 「市営ライダーハウスの整備」⇒ 市営ではなく民間でやるべきことと判断し、不採用として整理。
  - 色々な観光資源をつないで観光ルートにしようという意見として「遊歩道などによる市内観光施設のルート化」・「市内の観光資源を巡る観光バスツアーの実施」・「やきもの市や買い物めぐりなどのフットパスコース」などがあるので、これらは「観光資源のネットワークング」という項目にまとめて整理する。
  - 「廃校舎や民家の宿泊利用」⇒ 民家の宿泊利用は民間でやることで、廃校舎は現在無く、将来廃校舎が出るとしても耐震強度等の問題で現時点で利活用の方策を考えるのは難しいので、不採用として整理。
  - 「やきもの市の開催期間の延長」⇒ 民間がやるべきこととして整理。
  - 「EBE-1 や江別ブランドを企業や他市にとられない工夫」⇒ 不採用として整理。
  - EBE-1 グランプリは単年度のイベントだったとのことだが、このような食関連のイベントは『6次産業』に関連してB級グルメの振興や、食による観光にもつながるので、「食による観光の推進」という項目を設けて、『6次産業』の戦略テーマとも連動させる。
  - 「他市の人を訪れるような大型公園の整備」⇒ 児童公園ではなく高齢者向けの公園を整備して欲しいという意見とのことから、まちづくり部会で議論してもらうものとして整理する。

- 「JR防風林に宿泊・自然体験施設を整備」 ⇒ JRの問題であるので、民間がやるべきこととして整理。
- 「月に2、3回市内のどこかでやきもの市をイベントとして開催」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「昔チョウザメがいたことを活用」 ⇒ 現在はいないため具体化が困難なことから不採用として整理。
- 「シネコンの活用」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「札幌競馬場の誘致」 ⇒ 民間がやるべきこととして整理。
- 「桜や紅葉する街路樹を植樹し、食事のできる場所に整備」・「鉄道林南側への連続性のある桜の植樹」 ⇒ 観光というより景観の問題のため、まちづくり部会で議論してもらうものとして整理。
- 「湯川公園を道の駅として整備し、野菜や特産品などを販売」 ⇒ 湯川公園周辺は道の駅にするほどの交通量が無いことから、不採用として整理。

### **[戦略テーマ：地域の流通ネットワーク化]**

**河西部会長：**商店街の振興を今まで商店街単位で行っていたものを、これからの少子高齢化・人口減少社会の中で、消費者と商店街をつなぐネットワーク化が必要であるという意見がこれまでの部会の議論で出てきていることと、もう一つは産業として考えたときに江別の物流拠点としての立地的な優位性を活かしてはどうかということで、この戦略テーマを設定した。

- 生協のように大手の小売業を誘致できれば、そこに商品を納入している企業もくるし、物流会社そのものも江別に事業所を置くのではないか。
- 工業団地の拡大はリスクを伴うので、企業が誘致できる見込みがあるかどうか慎重に見極めて判断することが必要だが、農地の用途変更など都市マスタープランの見直しにも関係してくることであるので、総合計画の中に入れておくべきである。
- 短期としては生協の誘致に成功したため、それを活かして関連した小売関係の流通センターを誘致し、中期では新しく企業が誘致できる見込みができたときに新しい工業団地を検討し、流通センターとして整備して雇用を創出していく、という流れで整理する。  
⇒「流通拠点の創出」として、流通センター自体を産業として創出することをこの戦略テーマの一つの項目としたい。
- 地域の中での流通ネットワークをつくってはどうか、という意見が部会の中で出ている。高齢化社会・人口減少で商業施設の撤退が増えている中で、買い物難民が出ないようにどのような消費環境を提供し続けるかというのが行政の役割で、その対策として市内に物流網を構築して商店にある品物を高齢者のお宅に届けるというネットワークを構築してはどうか、というのがこの戦略テーマのもう一つの大きな柱である。
- 高齢者が買い物に出るにはまずバスを巡回させることが必要。それと大型店で商品の配送専用の車を準備して買い物難民を救済する方法がベストではないか。
- ポスフルなどがインターネットで注文すると配達してくれるネットスーパーをやっており、それらトラックが市内をたくさん走っている。そういう市内に様々な物流ルートを、地元の商店の商品も一緒に乗せてもらうことで活用する。江別市内にあ

る既存の物流ルートと商業者・企業をうまく結び付けることができれば地域内の物流網が構築できる。

- 「市内で商業と市民をつなぐ仕組みづくり」ということでは、一つはバスなど公共交通手段の工夫による買い物対策で、もう一つは既存の物流ルートを活用して市内に物流ネットワークを構築するということで整理するが、公共交通についてはまちづくり部会が所管であるのでそちらで議論してもらうこととする。
- 「地域バランスを考えた大型小売店の誘致」・「大型店誘致が重要」・「大型SC（アウトレットモール等）の誘致」 ⇒ 消費者目線だと便利で良いが、地域産業部会の議論の結果としては、地元の中小小売店等を圧迫することになり長期的に見て地域の商業衰退につながる懸念があること、その代わり大型店が無くても市民の買い物の利便性を高めることができるように地域の物流ネットワークを構築し、地域の商店の活性化も図っていく方針としたことから、不採用として整理する。
- 「商店街としての街並みの回復」 ⇒ 景観に関連するというので、まちづくり部会で議論してもらうものとして整理する。
- 「高齢化を見据えた徒歩でも買い物しやすい街」 ⇒ コンパクトシティに関する意見ということで、まちづくり部会で議論してもらうものとして整理する。

#### 4 戦略テーマとして抽出しなかった意見の整理（まちづくり政策の整理）

##### 【作業中の意見】

**河西部会長：**3つの戦略テーマの中に分類されなかった意見が残っているので整理したい。

総合計画に入れるのに不適切なものや民間でやるべきものは不採用として外していく。残ったものは戦略テーマとして一つにまとめることはせず、全体的な方向性であるまちづくり政策の中に位置付ける。

- 雇用に関して一つの戦略テーマとしてまとめるかどうかだが、具体策が意見として出てきていないし、産業の振興によって雇用が生まれることから雇用対策は他の戦略に内包されていると言えるので、戦略テーマとしては設定しない。